

アカハネオンブバッタの農作物への被害と  
大阪府における薬剤殺虫効果地方独立行政法人 大阪府立環境農林水産総合研究所 しろ城 つか塚 かな可 こ奈子

## はじめに

アカハネオンブバッタ *Atractomorpha sinensis sinensis* Bolívar (以下、アカハネ；図-1) は、バッタ目オンブバッタ科の昆虫で、在来種であるオンブバッタ *Atractomorpha lata* (Motschoulsky) と同属の近縁種である。アカハネは、従来、南西諸島、中国、台湾、ジャワ、アッサムに生息していた(村井, 2006) が、2008年に大阪府で発見されて(山崎ら, 2016)以降、兵庫県(神吉, 2019)、愛媛県(OKAYASU et al., 2020)、岡山県(末永・高橋, 2021)、福井県(梅村ら, 2025)などで確認されている。大阪府では、従来はオンブバッタのみが生息していたと考えられるが、アカハネは初確認されて以降、定着していると考えられる(市川, 2013; 松本, 2017; 2025)。

農作物上のアカハネについては、同属のオンブバッタの農作物への加害が確認されていること、アカハネの農作物への加害報告は初確認以降少ないが、農作物が寄主作物として報告されている(ISHIKAWA and TAKAHATA, 2019; 李ら, 2020)ことから、防除対策が必要となる可能性が高い。

そこで、本稿では、アカハネの寄主作物や食害の様子を紹介するとともに、アカハネ成虫に対する各種薬剤の殺虫効果および食害抑制効果を報告する。

## I アカハネオンブバッタの被害と寄主作物

アカハネの被害は、葉の食害(図-2a)が主である。アカハネの若齢幼虫では、葉の薄皮を残したような食害となることがある(図-3)。食害痕の様子は、チョウ目害虫(図-2b)に似ており、両者の識別は難しい。しかし、



図-1 アカハネオンブバッタ

Damage to Crops Caused by the Exotic Grasshopper, *Atractomorpha sinensis sinensis* Bolívar (Orthoptera: Pyrgomorphidae), in Osaka Prefecture and the Effect of Insecticides. By Kanako SHIROTSUKA

(キーワード: アカハネオンブバッタ, オンブバッタ, 侵入, 薬剤殺虫効果)